



Q_o 岡義博法律事務所報 第31号

高松市丸の内7番20号 丸の内ファイブビル5階

TEL (087) 821-1300

FAX (087) 821-1833

MAIL oka-law@kln.ne.jp

H P http://www.kln.ne.jp/oka-law/

暴力

所長 弁護士 岡 義博

近頃、家庭内での暴力が深刻化しているように思われる。親が幼い子に暴力を振ったり、食事を与えないなど虐待を繰り返す。逆に、子どもが親を殺すというニュースもよく聞くようになった。親殺しは中学生レベルまでの低年齢化している。中学生が同級生に自分の母親殺しを依頼したという事件もあった。依頼された中学生がそれを実行したというから鳥肌が立つ思いである。

このような社会になった背景については、これまでも色々議論がされている。暴力を肯定するテレビ番組やテレビゲームが世の中に溢れているとの指摘がある。また、家庭内において幼い頃からの善悪の躰が行き届いていないという家庭の教育機能の低下を挙げる人もいる。十分な教育を受けてない親が子どもを育てるため、段々と家庭における教育がなされなくなったというのである。

学校での道徳面における教育の低下という者もある。学校では命の大切さを教えているが、長年にわたって知識重視の教育を続けてきたことも確かである。地域の教育力の低下も挙げられる。子どものいたずらを近所の人々が注意することによって、地域全体で子どもを教育するという社会があった。それがプライバシーとか個人の自由とかいう考え方にはねつけられ、他人の子どもに口だしすることがはばかれる雰囲気となってきた。都会だけでなく今や田舎においても同じである。

多くの人が指摘するこれらの要因が背景となっていて、親も子どもも未成熟のまま社会を構成しているのが今の日本である。

では解決策はあるのか。要因はこれまで多くの人々が指摘してきたところにあるのは間違いないだろう。従って、その個々の要因を取り除いていけば良いということである。

しかし、その実現は困難である。どの要因をとっても具体的な解決策は見い出せない。害悪を流す根源を断つことは事実上不可能である。広い影響力を持つ伝達機関はマスコミというよりインターネットになっているのである。

また、表現の自由という問題もからんでくるからである。家庭については、両親が共働きしなければ生活できないような社会実態があるため子どもの教育に専念することは多くの家庭で困難である。また、頼りない親を教育する場というのは具体的には思いつかない。

学校では、心の教育に力を入れているが、いかにせん学校で過ごす時間はせいぜい1日の時間の1/3～1/4である。学校の教育力にも限界がある。地域でのコミュニティーは崩壊しかかっている。他人に口出しできる社会の再構築についての具体策は見い出せない。役所主導ではどうにもならないであろう。

結局、一人一人が良心を持って各人の立場で改善に取り組んでいくしかないのである。



法の女神・テミス

この像は、ギリシャ神話の「法の女神」テミス (Themis ...ギリシャ語で、「掟」「習慣」「法」「正義」を意味します) を形どったものです。

右手に掲げるはかりは、公平を象徴するとともに、悪の重さをはかり、剣は力による貫徹を象徴し、目隠しは無私をあらわすものといわれています。

身近な法律シリーズ(31) 法テラス

法テラスというのは、この(平成18年)秋、オープンした日本司法支援センターの愛称です。支援センターの本部は東京にあり、全国50ヶ所に地方事務所が設けられるので、各県に1ヶ所は必ずあります。この支援センターの主な業務内容は3つあります。

1つは法律情報の提供です。紛争解決に役立つ法制度を紹介してくれますが、最も役立つのは法律相談が行われている機関を教えてください。例えば、弁護士会での相談日は何曜日の何時で、場所はどこにあるとか、有料か無料かということなどです。もちろん、弁護士会での相談に限らず、県とか市でやっている法律相談などあらゆる法律相談を網羅して、その情報を提供していこうというものです。

この情報提供は無料で行われますが、問い合わせした人に最もふさわしい法律相談の場を提供してあげるためには、受付窓口の職員的能力が鍵になると思われます。アクセスはインターネットでもできますので、うまくいけば広く国民一般が法律相談を受けられる機会が大幅に増加することになるでしょう。

2つ目は、民事事件の法律扶助です。法律

扶助というのは、お金がないために弁護士を頼んで裁判ができない人のために、弁護士費用や裁判費用を立て替えてくれる制度です。法律扶助の制度は長い歴史があり、これまでは財団法人法律扶助協会がその役割を担っていました。扶助協会は弁護士が中心となって運営していました。法テラスになってからも弁護士はもちろん関与しますが、法務省の管轄なので、今後お役所仕事のような硬直した運営にならないよう、役人の天下り先にならないよう願うばかりです。

扶助の手続ですが、必要な書類をそろえて申込をすると、弁護士による調査があり、その後審査会があります。審査会で要件を審査し、OKが出れば扶助決定がなされます。審査を通る条件としては勝訴の見込が必要です。勝訴の見込といっても絶対勝てるという高いハードルではありません。見込みということで大丈夫です。支援センターから受任する弁護士にお金を支払われた後、申込んだ人は分割でセンターに返済することになります。分割金はだいたい月1万円です。

3つ目の業務は国選弁護制度の運営です。が次回に。(Y.O)

高松ウォッチング

今うわさの高気圧酸素セラピー、酸素カプセルをご存じですか。

先日東京在住の新しいもの好きのTさんがすごく良かったよと勧めてくれた。「インターネットで酸素カプセル高松ってひくとあるよ」というので調べる。何力所がありました。

「疲労回復、究極の若返り法」おためしキャンペーン実施中。行かないはずがありません。選んだのは 接骨院。

受付をすませ、先生と面談。先生曰く「気圧が上がっていくとき、耳がきーんとしてきます。飛行機に乗った時の状況ですね。痛くなくても、少し我慢していたら大丈夫。一度やめると二度と挑戦出来なくなりますから頑張ってください」と言われる。

少し不安になる。実は昔から耳の気圧を上手に抜けないんです。

さてスタート。ボンベのような、寝袋のような筒のチャックを開けて、中に寝る。しゃがんで頭を入れる時、首をぎくっとねじってしまったようだ。寝ているとすーっと清々しい空気が入ってくる。「フムフム、快適」うとうとしていたら、「大丈夫ですか」。のぞき窓から様子を見て、声をかけてくれるが、何度も来るので、もっと不安になる。

事務局 E・O

しばらくすると、耳が痛くなってきたが、我慢、我慢と、口をあけたり鼻をつまんだり...、とうとう耳がきーんとなり、「痛い!」。気圧をがくんと落としてもらう。やれやれ~。

それからは、ちっともリラックス出来なくなり体は緊張。目はランラン。

途中でやめるのはもったいない。最後まで頑張っている、やっとな50分が経過。

袋から出てみると、やはり首をねじっていて、耳は気圧が抜けないまま痛い。場所は接骨院。首の治療をしてもらって帰宅。治療用のウォーターベットが一番気持ち良かった。

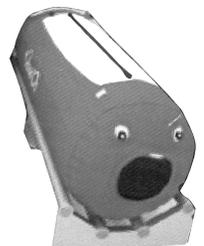
Tさんに電話したら、「安いじゃないの~治療込みで3100円なんて~」

疲労回復?行く前は、元気はつらつだったのに!「究極の若返り」も断念。

数日後、五色台の山に登って、森林浴!!

高松には無料の酸素カプセルがあっちこっちにありました。

都会の方は、お金を出して酸素カプセルへどうぞ!



外部の方からの投稿です

YOUNG - MAN!

事務局 H・S

マドンナが13年ぶりにワールドツアーで来日していた。自家用ジェット3機で。さすがセレブ。コンサートのSS席もセレブ価格で、定価で5万円！その席が破格で手に入ったので、見に行ってきました。

2億4000万円のスワロフスキー製クリスタルでできたミラーボールから出てきたマドンナ。

隣の席の中国人の女の子達は感動のあまりおいおいと泣き崩れ、反対隣のオカマちゃん達は「マダンナ！！マダンナ！！！」と、最初から最後まで絶叫。

48歳という年齢にもかかわらず、ハイレグなレオタードで踊るマドンナ。美と若さを保てる秘訣を教えてくださいたいものです。

道東の旅

北海道へはもう何度も行きましたが（昔のフォークソングの調子でどうぞ）、道東へは1度きり。それも20年以上前のこと。おぼろげな記憶を辿る。季節は夏、旭川から出発していざ東へ。北海道の旅は車がないと話にならない。道は広くて車が少ないので快適な走行。上川町から北見、美幌をぬけて最初の目的地屈斜路湖、摩周湖へ。霧の摩周湖として有名だが、やはり霧。何も見えず。夏場は最も霧が多いという。残念。



そこで、阿寒湖へ転進。阿寒湖はマリモで有名。当然おみやげにマリモを買う。小ピンに入ったマリモで、水を変えなくても生きてゆけるそう。マリモはその後、ずっと鮮やかな緑色を見せていたが、ある時気づくと小ピンはどこかへ行ってしまっていた。マリモも行方不明。小さい物は年が立つとどこかへまぎれてしまうものです。マリモさんの無事を祈ります。阿寒湖は霧がなく、湖の観光船の風も心地良い。阿寒湖の帰りに再度摩周湖にチャレンジ。やっぱり霧で玉砕。

気を取り直して網走へ。網走の観光名所は網走刑務所（名所と言うんかい）。

確かに、刑務所の看板の前で観光客が記念写真を撮っている。私たちが当然記念に1枚。この情景は今でも変わっていないでしょう。



網走から東へ向かえば知床半島。途中、小清水、斜里という町を通る。小清水にオホーツク海沿いに走る道があり、原生花園がある。原生花園は野生の草花が咲き誇っている場所で、釧路湿原のものが有名である。小清水のものも立派らしいが、この時は花が少なく少々残念。しかし、見渡す限りの海と大地で気持ちが良い。心は雄大になる。

この後さらに知床半島へ向かう。知床の最初の見ものはオシンコシンの滝。いわば知床の入口のようなものである。国道沿いにあるので手軽(?)に見ることができるが、仲々迫力がある。知床は知床五湖の散策のほか最近では温泉も人気がある。観光船から見る景色も絶景らしい。というところで、丁度時間となりました（浪花節の調子で）。湿原と観光船は未体験なので、もう一度知床を訪れ、再レポートをしたいと思います（いつのことか約束はできません）。（Y.O）

エトセトラ

事務局 T・I

最近「ブログ」という言葉をよく耳にしますが、自分のブログを持っている方はいらっしゃいますか？

その前に「ブログ」って何？って思いますよね。ブログは「Web」と「log（日誌）」を一緒に綴った「Weblog（ウェブログ）」が略されてブログと呼ばれるようになったもので、主に日記形式で利用されています。ホームページより簡単に作れるので、個人利用が急激に増加しています。

そのせいかインターネットを使って検索をし

ても、なかなか自分の欲しい情報に辿り着くことができなくなりました。例えばブログに「京都旅行」という文字が掲載されていれば、「京都」「旅行」と検索をした時に旅行会社のHPだけではなく、この言葉が掲載されているブログも検索にかかってくるのです。旅行に関して言えば、思いもかけない情報を得られることもありますが、検索方法も勉強しないと、延々と検索を繰り返すことになってしまいます。ちなみに「京都」「旅行」で検索するとヤフーでは「28,300,000件」ありました。